

衣服からもかなり強烈な硫化水素の臭いがしており、そちらも除染の対象になるのだろうと考えられました。

4. その後の対応

当院では、今回の経験を踏まえ、まずさまざまなものを準備し、このような中毒患者の対応に備えています。

①解毒薬

先述の亜硝酸アミル、亜硝酸ナトリウム
シアン中毒に対するチオ硫酸ナトリウム

②防護服、防護マスク

特に揮発性の有機リン中毒などに対するもの
(先日、熊本で大きな問題となった「クロロ
ピクリン」など)

③ディスポーザブルのバグバルブマスク

④室内換気用の強制換気ダクト

⑤シャワートローリー

現在の救命病棟完成時からありますが、今後
一層の活躍が期待されます。

さらに、当院ではこのような危険化学物質による
中毒患者さんを受け入れる際に、以下のような方針
を徹底することとしました。

①救急隊のストレッチャーから直接シャワート
ローリーに移動する。

②シャワートローリー上で脱衣を確認、してな
ければここで完全脱衣。

③衣服は全て危険物としてビニール袋に二重に封
じる。

④体が濡れていたり、異物がついていたりする場
合は拭いて除去する。

⑤汚染部位（不明であれば全身）を大量の水（温
度の高すぎないお湯）で洗浄する。目など粘膜
部も洗う。

⑥通常の石鹸を用いて愛護的に洗う（ゴシゴシ洗
うと防御層である角質がはがれてしまう）。

⑦患者が不安定な場合は、汚染除去と並行して必
要に応じてモニター装着・気道確保・点滴など
を開始。

もちろん、原則として風除室に入る人員は最小限
で、防護服などは風除室や定められた診察室から出
際には必ず脱ぐなどのことも徹底しております。

5. 硫化水素中毒におけるCPA患者さんの対応につ いて

先ほど述べたとおり、硫化水素中毒によりCPAに至
る経緯には必ず低酸素が存在し、その影響でCPAに
至った例については、自己心拍が再開したとしても、
低酸素脳症により、最も改善した状態で植物状態であ
ることはほぼ間違いなく、予後はきわめて不良であ
るといわざるを得ないでしょう。

したがって、今後、硫化水素中毒のCPAについては、
発生現場の状況で判断が可能なこと、CPAに至ってしま
えば、脳の蘇生が極めて困難であると考えられる
ことから、状況によっては今後不搬送などの対応を
考えてもよいのではないかと考えられます。

6. 最後に

当院での硫化水素中毒によるCPA患者さんの受け
入れ経験を報告させていただきました。わが国の自
殺者は年間3万人を超えているのが現状ですが、今年
に限って言えば、硫化水素を用いて自殺を完遂した
自殺者は、わずか5カ月で例年1年分の約20倍もいる
という報道がなされています。今後も硫化水素中毒
の患者さんが搬送されてくる可能性がありますので、
今回の経験を踏まえて、診療をスムーズに、かつ安全
に行えるようになる必要があると考えております。

そのために私の報告が少しでも皆様のお役に立つ
ことがあれば幸いです。

ご拝読誠にありがとうございました。

電子メールによる会員への情報提供について

—メールアドレスの登録—

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メール
により緊急性の高い情報を、会員の皆様に送
信提供しております。対象は当会の電子メール
アドレス利用者全員と他プロバイダの電子メール
アドレスをお持ちになっていて、本会にアド
レスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録に
つきましては、随時受け付けておりますので、
是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレス
を明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.doui.jp